

# 令和4年度技術検討会 開催報告

鴨志田 紘子

## 1. 当社における「技術検討会」の成り立ち

「技術検討会」は、その前身を「プロジェクト報告会」とし、名称変更から今年で8回目の開催となった。

現在も「プロジェクト経過報告会」として毎年の業務内容及び経過、成果紹介を行っているが、これにとどまらず、当社の持ちうる技術、展望、あるいは課題などについてより活発的な議論を行える場として、別途「技術検討会」を開催するようになった。

当社におけるプロジェクト制は平成10年に導入され、比較的規模が大きく、かつ高度な専門性が求められる業務においてより顧客満足度を高めるべく、技術研究部長、もしくは支店長により指名されたプロジェクトマネージャーを筆頭にプロジェクトチームを編成し、業務に取り組む体制である。多様なフィールドに関わる社員として、それぞれが担当する業務のみならず、各種プロジェクトの情報を共有し、相互理解を深めることで、全社的な協力体制を構築し、品質の高い成果品提供、技術提供を行うことが重要である。

## 2. 2022年度の技術検討会開催結果

令和4年4月26日と27日の2日間にわたり、東京都品川区内の会議室にて、感染症対策を講じたうえで開催された。現地調査などにより残念ながら欠席者も出たが、総勢71名が参加した。

若手の発表者を中心に、「外洋」「沿岸」「技術研究・開発」の分野に区分し15件について報告を行った。質疑応答では若手社員からベテラン社員まで、多くの質問や意見が行き交い、活発な議論が繰り広げられ、休憩時間にも個別に意見交換を行う姿が多くみられた。

新型コロナウイルス感染症に関する感染予防措置等を受け、一堂に会することの難しさが付きまとう昨今であるが、国内の感染者減少のタイミングに合わせ、かつ会場の協力もあり入念な感染症対策が講じられたことによって、対面での開催が可能となった。メールや電話だけでなく、web会議やチャットが一般化したことによりコミュニケーションのツールが広がったとはいえ、顔を合わせて行う議論は五感を駆使し、より得るものが多かったように感じた。

今後は対面開催、オンライン開催、対面とオンラインのハイブリッド開催等、コミュニケーションツールをうまく使い、当社のさらなる技術発展に繋がる議論を重ねていきたい。



図1 会場風景



図2 閉会挨拶



図3 発表風景



図4 新人挨拶

